

人口と世帯	人口	405,558人
	男	200,720人
	女	204,838人
	(前月より739人増)	
世帯	166,251世帯	
(前月より409世帯増)		
(16年11月1日現在)		

12月議会が開会 会期は22日まで 補正予算など16議案を提案

平成16年第3回市議会定例会が12月1日に開会されます。本会議には、平成16年度一般会計補正予算など16議案が提案されます。議案の内訳は、予算5件、条例7件、契約2件、損害賠償1件等となっています。会期は今日22日までです。

補正予算案

今回の補正額は、一般会計2億1833万6千円、特別会計6億8300万6千円、一般会計と特別会計の合計で、9億134万2千円となります。

一般会計補正予算の歳入の主なものは、財産収入1億275万5千円、都支出金7886万8千円、市債1640万円となっています。同じく歳出の主なものは、民生費1億425万8千円、衛生費1億1257万円、総務費5730万3千円となっています。

補正後は、一般会計1171億5310万5千円、特別会計(企業会計含む)1050億6030万6千円、一般会計と特別会計の合計で2222億1341万1千円となります。

一般会計の補正後の内訳は、歳入では市税619億651万7千円(構成比52.8%)、国庫支出金134億279万8千円(同11.5%)、市債95億9420万円(同8.2%)、都支出金95億7805万1千円(同8.2%)、地方消費税交付金39億6894万5千円(同3.4%)の順になっています。

歳出では、民生費393億241万6千円(構成比33.5%)、土木費156億4138万2千円(同13.3%)、教育費153億5967万5千円(同13.1%)、総務費143億275万3千円(同12.2%)、公債費138億2530万8千円(同11.8%)の順になっています。

今回の補正予算に計上されている科目別の主な事業は次のとおりです(1万円未満は切り捨て)。

【総務費】 財政調整基金積立金(9132万円)

【民生費】 児童保育運営費(1億2623万円)

【衛生費】 緑地保全基金積立金(1億1173万円)

【土木費】 歩道整備工事費(500万円)

【公債費】 一般会計償還元金(5593万円)

条例案

開発指導、建築指導に係わる許可申請手数料、建築確認申請手数料の金額の改正をする「町田市手数料条例の一部を改正する条例」玉川学園文化センターの「いこいの間」の使用時間を、ほかの施設と統一する「町田市地域センター条例の一部を改正する条例」木曾森野高齢者福祉施設に民設として地域型在宅介護支援センターを設置し、せりがや在宅介護支援センターを廃止する「町田市在宅介護支援センター条例の一部を改正する条例」子どもセンター2号館の開設に伴い、施設の名称を加えるための「町田市子どもセンター条例の一部を改正する条例」子どもセンター2号館内に児童保育クラブを併設し、小山小学校内に児童保育クラブを新たに設置する「町田市児童保育クラブ設置条例の一部を改正する条例」都の条例改正にあわせて、補償基礎額及び介護補償の額を引き下げる「町田市立学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の公務災害補償に関する条例の一部を改正する条例」有料施設として貸し出す2施設を条例に追加する「町田市体育施設条例の一部を改正する条例」などです。

市長随筆

町田市長 寺田 和雄

国土交通省関東地方整備局はこのほど、「関東の富士見百景」と称して、関東地方で富士山の眺望の優れた場所百か所を選んで発表しました。今回選ばれたのは第1次分63地点で、残りは第2次として近く追加されることになっている。国土交通省とは、建設省、運輸省などが合体して数年前に発足した省で、俗に「トンカチ行政」の象徴のように言われていたが、近頃は随分と粹なことをするようになつたと思う。

日本人と富士山という関係は、昔から詩歌や絵画の世界にもしばしば現れる。例えば広重や北斎の浮世絵などにも、江戸市中の情景を描いて遠く富士を置くという構図は一つの定型のようになっていく。富士見町とか富士見坂という地名も各所にあり、いかに日本人は富士山が好きかわかる。今回の選定は、単に富士山の眺

地域文化功労 文部科学大臣表彰

町田フィルハーモニー交響楽団
常任指揮者・舞台監督の荒谷俊治さん



市役所を訪れた荒谷夫妻

今年度の地域文化功労の文部科学大臣表彰で、町田フィルハーモニー交響楽団の荒谷さんが表彰されました。これは町田市におけるこれまでの芸術文化活動に対する功績が特に顕著であると認められたものです。

荒谷さんは、昭和34年、東京放送合唱団を指揮して以来、日本フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団などを指揮してきました。昭和50年、町田フィルの前身の町田市民管弦楽団の音楽監督・常任指揮者に請われて就任。その優れた音楽的な才能と管理手腕で、当時では結成間もないアマチュア楽団の町田フィルを、海外公演できるほどに育て上げました。現在ではその実力は高く評価されています。

また、市の芸術文化の発展のため、町田フィルハーモニー交響楽団、町田市合唱連盟、町田バレエ連盟、音楽指導者連盟の4団体をとりまとめ、NPO法人町田市芸術協会の設立に尽力し、その理事長に就任、平成16年4月には、市が設立した財団法人町田市文化・国際交流財団の理事にも就任されています。

この見晴らし台は、多摩丘陵の尾根部分の樹林を切り開いて草原状になっている高所であり、眼下に鶴見川を配して、丹沢連峰の肩越しに富士山の上部を望むという地点である。選定のコメントとして、「鶴見川流域の自然交流拠点としてイベント等が活発に行われており、市民の景観への関心が高まり、鶴見川の他の選定点との連携によりさらなる地域交流を期待したい」とある。



小野路からみた富士山
撮影 添田友幸氏

富 士 山

この見晴らし台は、多摩丘陵の尾根部分の樹林を切り開いて草原状になっている高所であり、眼下に鶴見川を配して、丹沢連峰の肩越しに富士山の上部を望むという地点である。選定のコメントとして、「鶴見川流域の自然交流拠点としてイベント等が活発に行われており、市民の景観への関心が高まり、鶴見川の他の選定点との連携によりさらなる地域交流を期待したい」とある。

町田から見る富士山

この見晴らし台は、多摩丘陵の尾根部分の樹林を切り開いて草原状になっている高所であり、眼下に鶴見川を配して、丹沢連峰の肩越しに富士山の上部を望むという地点である。選定のコメントとして、「鶴見川流域の自然交流拠点としてイベント等が活発に行われており、市民の景観への関心が高まり、鶴見川の他の選定点との連携によりさらなる地域交流を期待したい」とある。

望がよいというだけでなく、美しい国土づくりの一環として周辺環境の保全と活用などのとりくみが続けられ、地域振興が期待されているなどが重視されているようである。

今度の選定の中に、町田市では一か所都立小山田緑地見晴らし広場が取り上げられた。町田市は、丹沢・大山の連峰に遮られて必ずしも富士の眺望に恵まれていないだけに、今回の選定はとても嬉しいところだ。町田と富士の関係である。前述したように、町田の主要地域からは、丹沢・大山の連峰が富士をほとんど顔も見せない。よほどの高所でも、ほんのチラリであって残念である。先日、フォトサロン(秋山庄太郎美術館)で「町田から見る富士山」の公募展示を行ったが、応募された皆さん、だいぶ苦労されたようである。小山田、小山、相原方面と、市の西部地域の高所からは、

丹沢連峰もぐんと低まり、富士は全容とはいかないが、肩から上ぐらいが現れる。撮影地点の一つである。また、鶴川方面の高所、例えば鶴川団地辺りから意外に富士を望見するが、つまり、すこし富士と距離を置くと、丹沢連峰が遠く低くなるのである。小田急線の成城学園前駅を出て町田方面へ向かう車窓の前面に、富士が見事に全容を現すが、これも道理である。町田から富士の好地点をお教えしよう。意外な穴場である。町田の最南端、南町田から東名高速道路の横浜町田インター周辺である。ここまで来ると、丹沢・大山連峰もずっと右に寄って、富士山はずっくりと腰のあたりから、ほぼ全容を現す。ぜひ狙ってほしい地点である。晴天の正月三が日などおすすりめしたい。